分野別研究組織成果報告（2016 年度）

協同学習を基盤とした外国語教員研修ワークショップの開発とモデル化

Development and modelisation of workshops
for foreign language teachers based on collaborative learning

今中　舞衣子（IMANAKA Maiko）

本研究は、教員間の対話が促進され、参加した教員が自分たちの力でさまざまな実践上の問題を解決していけるようなネットワーク形成の要因とワークショップ実践のデザイン原則を明らかにし、その成果を今後の教員研修ワークショップの開発とモデル化に生かすことを目的としている。研究方法としては、東京でフランス語教員の有志により定期的に開催されている Péka（ペダゴジーを考える会）での参与観察と、当該コミュニティに初期から参加している中心的なメンバーへの半構造化インタビューを行った。

今年度においては特に、コミュニティの時系列的な変遷の記述と、参加者の視点からみた教員ネットワーク形成の実践知に対象をしぼった分析を行った。結果として、すべての参加者の平等性の担保、受動的参加態度への批判、状況・参加者に応じた活動デザインの修正、個人の生き方との継続性等の要因が当該コミュニティの形成と発展に深く関わっていることがわかった。

本研究の成果発表としては、2017 年 9 月 22 日、国際フランス語教授連合アジア太平洋大会（FIPF CAP KYOTO 2017）にて研究発表「Comment concevoir et développer un lieu de co-apprentissage pour des enseignants de français ? – Des histoires orales des participants de Péka（日本語訳：フランス語教員の学び合いの場をいかにデザインし拡張するか――Péka に集う人々のオーラルヒストリー）」を実施した。また本研究の一部は、細川英雄・太田裕子（編著）『キャリアデザインのための自己表現――過去・現在・未来を結ぶバイオグラフィ』（東京図書）に収録された論文「コミュニティへの関わり方とあり方を問う――当事者意識とアイデンティティ」の中で事例として採録された。さらに、本研究の成果をまとめたものを、2018 年 6 月末日刊行の『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』に掲載予定である。

本研究の今後の展望として、1987 年より関西で同様の取り組みを続けている Rencontres Pédagogiques du Kansai（関西フランス語教育研究会）の参加者へのインタビューをもとにした比較研究を予定している。